

宇陀市都市計画マスタープランに対する主な意見と（趣旨）と市の考え方

NO.	主な意見（趣旨）	市の考え方
1	(P69, 79) ・ 駅周辺は、民間の高層マンションを建てるべき。商業の中心市街地は、規制を見直し、元榛原町役場から篠楽のセブンイレブンまでを市街化するべき。 ・ 大字陀・室生、榛原・菟田野など地域で分けるのではなく、宇陀はひとつであると言ったスローガンのもと観光・産業の発展に行政が道筋をつけるべき。	・ 都市計画マスタープランは、都市づくりの長期的・総合的な指針としての役割を果たすものとなります。P79 に記載の通り、榛原駅周辺は宇陀市の中心となる都市拠点として、駅から西側については、都市的土地利用への転換の検討として、住居をはじめ様々な都市機能を誘導していくこととしております。 ・ 宇陀市都市計画マスタープランは、宇陀市の都市計画に関する基本的な方針を示すもので、冒頭の P6 で記載しているように、「オール宇陀市」のまちづくりの観点から、対象区域を市全域としています。地域別構想では具体的に地域ごとのまちづくりの方向性について触れています。
2	・ 法定外公共物の払下げについて 現在、里道が私物化されているような状況が見られると感じている。都市計画の円滑な実現のため、日頃から適正な管理を行うことが重要で、積極的な払下げを進めることも大切だと思う。	・ 法定外公共物に関する諸問題については、市の関係課と連携し、検討して参ります。